

令和2年度 第3回社会教育委員会議 会議録（要旨）

- 1 日時：令和2年12月25日（金）10:00～11:10
- 2 場所：北九州市立生涯学習総合センター 3階ホール
- 3 出席者 委員 野依議長他 10名
事務局 市民文化スポーツ局長 久保山他 21名
- 4 議題、議事の概要
 - (1) 市民文化スポーツ局長あいさつ
 - (2) 議題
 - ア 議長・副議長の互選について
 - イ 北九州市生涯学習推進計画（令和元年度評価）について
 - ウ 次期北九州市生涯学習推進計画（素案）パブリックコメントの実施結果等について
 - (3) その他報告
 - ア 令和3年度以降の生涯学習センターについて
- 5 主な質疑応答、意見等

議題（イ）北九州市生涯学習推進計画（令和元年度評価）について

事務局：（令和元年度評価について説明）

委員：それぞれの事業の目標に対しての結果ということでランク付けされているが、評価の根拠がばらばらのような気がする。

数値目標が掲げられているので、分かりやすいと思うが、目標値と実績値の関係を見ると目標値を達成していても「B」である。例えばここにある目標値を最終的に評価の対象にするのであれば、目標値達成＝Aになるのではないと思う。目標値だけではなくて、中の進捗状況などを加味したとなると、評価という面からすると少し分かりにくいと感じる。

評価基準、数値目標に対する達成率について、説明していただきたい。

事務局：評価については、A～Dにしている。記載している事業の多くは、市の行政評価の対象事業になっており、「A：順調」でいくと、達成率が120%以上、「B」については60%～119%の達成率、40%～59%までを概ねC評価でやや遅れとし、「D」については39%以下という形で評価している。

事業によっては、単純な達成率だけではなく、多少いろいろな背景などを加味したものもあるが、基本的にはこの評価基準に基づいて、A・B・C・Dという形で評価している。

評価基準を示していなかったため、分かりにくい部分もあったと思う。今後、改善を検討する。

委員：民間企業の場合、資料を作るときに、言葉よりも表、表よりもグラフ、が基本である。グラフや表を使う等の工夫をしたほうが、読み手からすると分かりやすいと思う。

今回、事前に資料をかなり読んだが、やはり読んだだけではどうやって評価するのか分かりにくいところがあったので、参考になればと思う。

委員：施策1の全体評価「C」の中で、No.2「まなびネットひまわりへのアクセス数」はとても実績が伸びているが、達成率は13.2%で、さらに、令和2年で、その目標値をもっと上げている。これはいったいどういうことなのかと感じた。

達成率に対する、次の年度への目標値はどのようにして設定しているのか。

事務局：「まなびネットひまわりへのアクセス数」は、前計画を策定した時に、5年後の目標として最終的に18万件という設定をした。その中で、年度ごとに毎年これだけ増えていくという目標を掲げていたが、少し現実と乖離している部分があった。この点については、次期計画では見直しを加えたところである。

次期計画では、途中段階で一度、目標値の設定を見直すことも検討していきたい。

委員：人材バンクとまなびネットひまわりの件について、システム改修中との説明があったが、どの程度の改修なのか。まなびネットひまわりは200名くらいの方が登録されているが、検索していくときに、少し分かりづらい面もある。全面的に変わるのか。

事務局：今のまなびネットひまわりは、かなり見にくい、検索しにくいものになっている。学習情報もかなり限定されたものになっている、例えば、各市民センターや社会教育施設の情報も見られるとか、ジャンルや講座の開催日などでも検索できるような、ほぼ全面改修に近い形で作業を進めている。

委員：まなびネットひまわりはアクセス数を評価しているのか。アクセスしたあとの実績というのは、どの程度なのか。例えば講師を紹介した実績の数というのは表れているのか。

事務局：アクセス数は1万5,878件となっている。依頼件数は、No.5に「人材バンク依頼件数」ということで、目標としては70件だが、令和元年度は24件という実績になっている。

議題（ウ）次期北九州市生涯学習推進計画（素案）パブリックコメントの実施結果等について

事務局：（パブリックコメントの実施結果等について説明）

副議長：（12月11日開催の第4回次期計画検討会議全体会で検討した内容を報告）

委員：パブリックコメントの中にも出ていたが、最近、非常に横文字が多い。特にデジタル化になって、一層、理解しにくい言葉も出ている。

広報誌を作るときに、市民の皆さんに広く知ってもらう必要があるから、例えば、「シビックプライドとは日本語に訳すとどうなるか」とか、「SDGsとは何なのか」ということを、分かっている人の目線ではなくて、市民目線で書くと、非常に読みやすくなるのではないかと思う。ぜひ、そこをお願いしておきたい。

事務局：ご指摘のとおり、パブリックコメントの中でも横文字が多いというご意見がある。この計画を市民に広く浸透していくうえで、今お話しいただいたように、「シビックプライド」などの言葉や新しく出てきている言葉を、脚注など、分かりやすい説明を入れた形で、市民に周知していきたい。

委員：特に最近、行政が作る広報というのは、非常に言葉が多い。世の中は、やはりビジュアル化してきており、言葉よりも、例えば絵で訴えろとかいうことも、ぜひ考えていただきたい。できるだけ多くの人に読んでもらい、興味をもってもらうという目線で提供してほしい。

委員：図書館は、社会教育のための機関と位置付けられていると思うが、障害者のための点字図書館も、社会教育の機関としての役割があると理解してよろしいか。

事務局：今回の計画では「多様性に配慮した学習」という部分も盛り込んで、目が不自由な方等の学習環境もしっかり整えていくことにしている。点字図書館やビデオライブラリーといった所も施設の1つとして位置付けて推進していきたい。

その他報告（ア）令和3年度以降の生涯学習センターについて

事務局：（令和3年度以降の生涯学習センターについて説明・報告）

（特に質疑応答・意見なし）